



ANNUAL

尼崎市立
ユース交流センター

年次報告書 2021



REPORT



尼崎市内のユースセンターとして

2019年10月にオープン



ユースセンターとは、学校でも家でもない、
若者の居場所です。

放課後や休日などの時間に若者が集い、
ロールモデルとなる様々な人と出会い、
いろいろなことにチャレンジしながら
学ぶことができる場所です。

2019年度には、半年間でのべ約1万6千人に
利用していただきました。



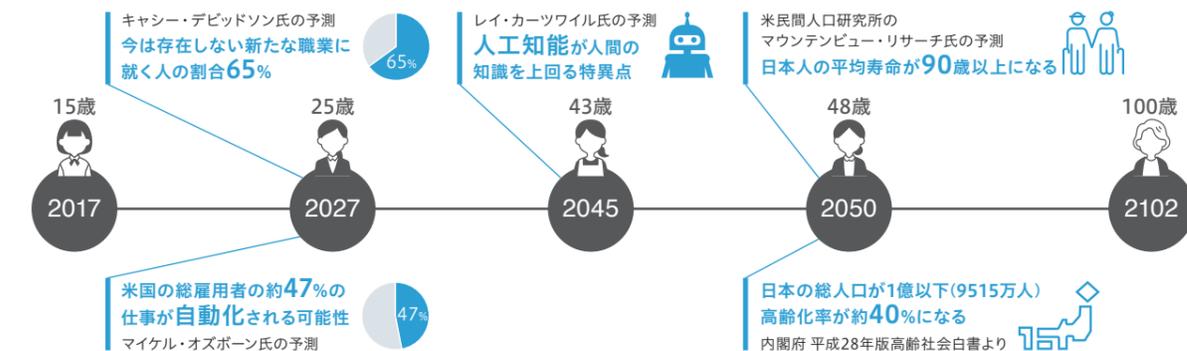
「どうせ言っても変わらんやん」から 始まった尼崎市のユースセンター。

センター開設当初、多くのユースが口をそろえて話した「どうせ」という言葉。私たちの活動はここからスタートしました。
日々多くの若者と接しているユースワーカーは、様々な話を聴きます。学校のこと、家のこと、友達のこと、兄弟姉妹のこと、恋愛のこと...嬉しいこともあれば、つらいことやしんどいことも、日常的な出来事話します。そんな若者のリアルな声がユースセンターには詰まっています。

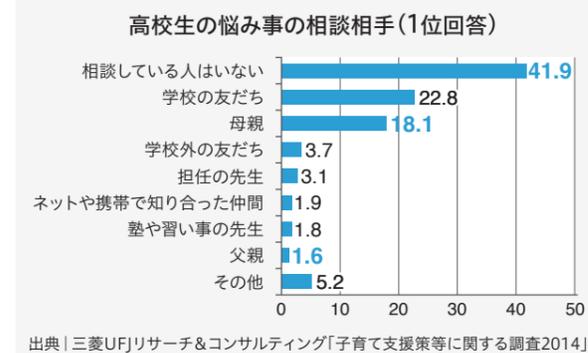
「予測不能な未来を乗り越えていく」

これから若者が生きていく社会は、目まぐるしく変化し、今まで以上に予測不能になってきています。入試改革により、センター試験は終了し、学習指導要領の改訂により、高校の授業内容は「探求」を軸とした学びに向かう力へとシフトしてきています。またAIを始めとする技術進歩が今後ますます加速していきます。若者が将来や社会に対して抱く不安は今後さらに大きくなっていくことが予想されます。

予測不能な未来



親に大事な事を話さない世代特性



子どもたちの20人に1人が、「どこにも居場所がない」と感じている社会

内閣府「子供若者白書(令和3年版)」によれば、どこにも「ほっとできる居場所」がないと答える子どもの数は増加傾向にあり、約20人に1人に上ります。また、社会の変化によって共働き世帯の増加や教員の多忙化が進み、従来と同じように、複雑な若者の揺れを親と教員だけに任せていくことが限界になっています。ますます将来や進路のことに対する不安は大きくなっていきます。若者の挑戦をサポートしていくためには、何でも話せる人を、地域の中でどれだけ多くつくれるのが重要になってきます。

ユース交流センターでは、 「やりたいをやる」を キャッチコピーにしています。

“やりたい”というには、楽しいことというだけでなく、自分の信念を貫いて挑戦したいことという意味も含んでいます。誰しにも本当にやりたいことをおもいっきりできる環境があれば、変化ある社会も乗り越えていけると考えています。



尼崎市立ユース交流センターが目指すべきところ

ミッション

多様な選択肢の中から自分で決断し、
その選択に責任を持って行動する人を育てる。

ユース交流センターでは、社会の変化や若者の環境の変化に対応していくために、上記の内容を使命として掲げ、運営を行っています。



尼崎市立ユース交流センターの3つの特徴

出会う



若者が新たな自分の可能性に気づいたり、新たな興味関心を発見したり、様々な仲間や地域と交流するきっかけがあります。

実践する



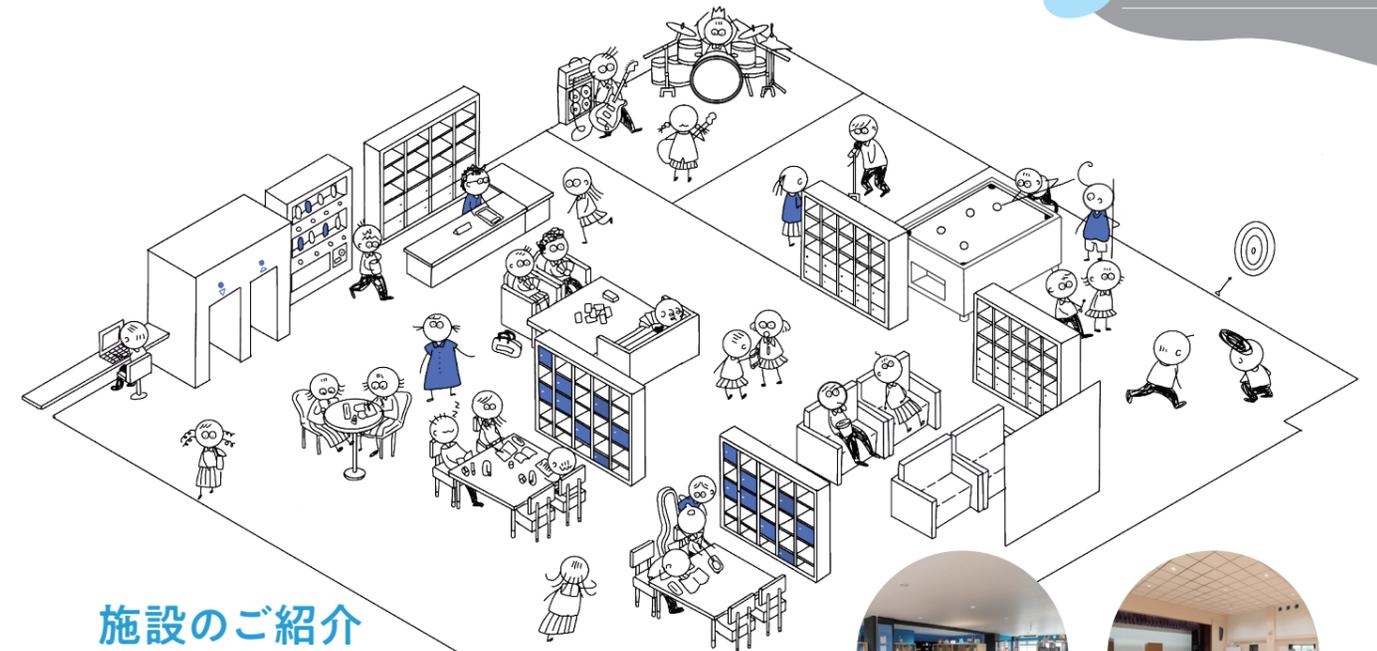
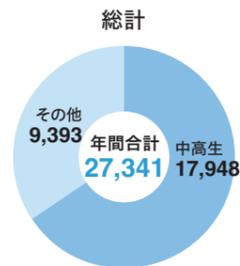
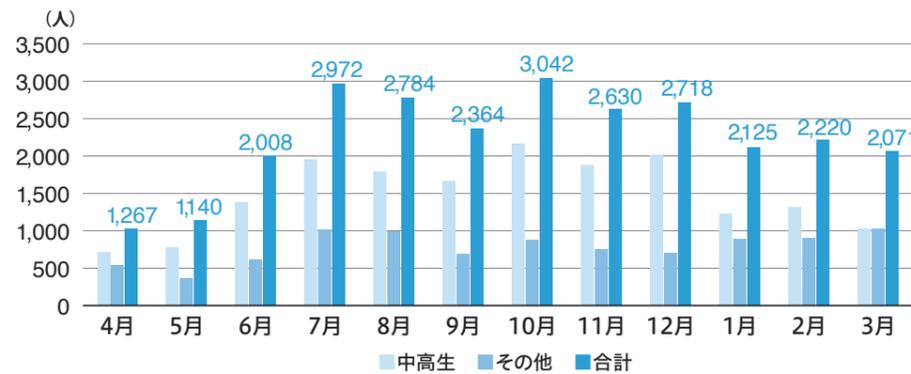
たのしそうだな、おもしろそうだなと思うことをスタッフや他の仲間と一緒に挑戦していきます。

つなぐ



悩んでいることや、不安に思うことはいつでも相談に乗ります。専門のスタッフが自分に合った道筋と一緒に考えていきます。

ユース交流センターの利用者数(施設全体/2021年度)



施設のご紹介

ユース交流センターでは、すべてのユースが
過ごしやすい環境を準備しています。

※ホール、音楽スタジオ、多目的室ほかミーティングスペースの利用には事前にグループ登録が必要です。青少年団体やグループは無料で利用できます。

オープンラウンジ

ホール



青少年学習室



図書コーナー



フリースペース



音楽スタジオ



多目的室ほか
ミーティングスペース

HISTORY

これまでの歩み

尼崎市立ユース交流センターは2年間でのべ5万人の若者と一緒に様々な活動を行ってきました。

<p>2019年10月 ユース交流センターオープン!</p>	<p>2020年3月 緊急事態宣言で臨時閉館 オンラインイベント&オンライン ユースセンター開始</p>	<p>2020年8月 地域での 大規模イベント ODA FES開催</p>	<p>2020年12月 ユースカウンシル事業 (Up to You!)スタート</p>	<p>2021年9月 来館者5万人突破!</p>
<p>2020年2月 立花地区で 初めての ユースサテライト 事業を開始</p>	<p>2020年6月 新型コロナウイルス感染症の対応につ いて、ユース×市長×教育長とのトーク セッションの開催『dialogue for with コロナ～市長と教育長と中高生と～』</p>	<p>2020年11月 大規模イベント 「A Youth Fes 青春を駆け抜けよう! inあま〜2」開催</p>	<p>2021年6月 2021年度版『子ども白書』 にユース交流センターの取 り組みを紹介</p>	

さまざまな活動を通して、 多様な選択肢を考える

若者の活動を促進することを目的に様々なイベントを行っています。若者自身が企画し、一緒に運営して開催も行います。



- ・スタディカフェ
- ・Sports Day
- ・ボードゲーム大会(TRPG等)
- ・e-sports大会(壁ゲーマーズ)
- ・国際交流イベント
- ・学びイベント(LGBTQ/政治/マナー等)
- ・音楽フェス/ハロウィンナイト
- ・体験講座(イラスト講座/ギター講座等)
- ・A Youth Fes(市内全域での文化祭)
- ・ユースカウンシル(まちの課題を市に提案)

身近に

ユースセンターがある生活

ユース交流センターでは、「身近にユースセンターがある生活」を目指し、センターを飛び出して、若者の活動拠点の整備を尼崎市職員および地域団体と一緒に進めています。

各地区の取り組み

たちばなユーススペース

立花地区

勉強に集中したり、ちょっとお話をしたり、みんなでボードゲームしたり、自由に過ごせるフリースペースです！定期的にイベントもしています！



校内居場所カフェ

園田地区

地域団体と一緒に高校内での居場所カフェを毎月1回実施しています。放課後の時間、部活に行く前などにふらっと立ち寄り、自由に楽しんでいます。



たけやキッズパーク

中央地区

小学生を対象に中学生が企画して、昔遊びや理科実験の企画など様々なイベントを毎月1回の頻度で実施しています。



MUKOカフェ

武庫地区

地域団体と一緒に中高生を対象とした居場所の運営を行っています。月1回の頻度でイベントも開催しています。

※2021年度からは内容を変更しています。



ODAevent

小田地区

地域課職員と一緒に音楽イベントやe-sportsなど様々なイベントを実施しています。小田南生涯学習プラザの1階をユーススペースとして開設しています。



中学校内での取り組み

大庄地区

大庄地区の中学校の生徒会メンバーと一緒に、学校内での交流を目的として、バスケットボール大会や校内居場所カフェなどの取り組みを実施しています。



稲村 和美

尼崎市長

「若者がまちづくりの主役になるために」

ユース交流センターは、遊びや勉強のための空間であると同時に、若者の主体性を育み、困難があれば支援していく「ユースワーク」の視点を重視してスタートしました。

オープンから2年が経過し、子ども・若者が自分たちの生活や活動のなかで感じる課題に向き合い、解決を目指す「ユースカウンシル」の活動も活発になっており、とても嬉しく頼もしく思っています。

たとえば、市内にスケートボードの練習場所がないという声を受けて呼びかけたところ、若者主体での練習場の制作や初心者向け教室が展開されました。今は「市内に常設の練習場ができないか？」「周囲と共存するにはどんな条件やルールが必要？」と自分たちで考え、学び、行動して挑戦を広げています。

自分たちの活動には周囲を動かす力がある、思いがカタチになるという手応えを若者が実感できるまち。彼らの力を信じて尊重し、パートナーとなる大人がいるまち。その要のひとつであるユース交流センターの役割は大きいものがあります。これからもセンターを拠点に「ひと咲き まち咲き あまがさき」のまちづくりがさらに前へ進むことを期待しています。

大人からみたユースセンターは？

“ななめ”の関係性で子どもの“してみたい”を耕す場所

尼崎市でスクールソーシャルワーカーとして小中学校に勤務しています。これまで、学校に行き難くなった子ども達にユース交流センターを紹介し、お世話になったこともありました。今では見違えるほど、青少年活動に打ち込んでいる方も居ます。「孤立」「孤独」という言葉は子どもの世界にも当てはまります。学校でも家でもない、地域の居場所での他者との交流が「孤立」を解消させ、「孤独」を癒します。ユース交流センターには子ども達から見て、少し年上のステキな大人達が居ます。親でも、先生でも、友達でもない“ななめ”の関係性で関わってくれる大人が子ども達にとってのロールモデルとなり、将来の自己イメージを育みます。自分の将来をポジティブに捉えることができれば、自然と意欲が芽生えます。意欲が行動となり、行動が経験となり、経験が人格を彩っていきます。ユース交流センターは子どもの“してみたい”の土壌を耕し、実際に実現できる環境が整っています。この3年という短い期間で、ユース交流センターは尼崎の子ども達にとって、欠かせない存在になりました。これからも尼崎市における青少年活動はくまも拠点として在り続ける事を祈念しています！



油井 智宏

尼崎市教育委員会事務局学校教育部子ども教育支援課
スクールソーシャルワーカー

#ユースしか勝たん、ではいかん。

うちに来ていた若もん、中でもド常連から、この3年で頻出する言葉、“ユース”。「この前もユース行ってきた」「ユースの人やさしい」「ユースあってよかったわ」これまでは、スマイル・スマヒロだったその言葉が置き換わっていく寂しさもあるが、気にかけている若もんが、新たなより所を見つけ、人間関係を広げていっていることが、嬉しい。ユースが出来てから、様々な事業を通じ、若もんが今何を考え、何に楽しさや苦しさを感じ、日々過ごしているのか、地域の大人として痛感することが多くなった。それだけこの年代の声や日常と関わる機会があまりにも少なかったんだと猛省する。

ユースはおしゃれ＆Wi-Fi＆最新ゲーム完備ゆえ、推されているのではない。一人ひとりの職員が、一緒に遊びダベリ、若もん同士を繋げ、地域に繋げ、そういう地味で地道なやり取りこそが、ユースしか勝たんのだ。

でも、ユースに任せれば大丈夫、では全然大丈夫ではない。アマのこども若もんにとって、より身近なあそび場たまり場は、地域にこそ必要だ。ユースが出来るまでこっそり使ってた「#いつまで中高生世代ほっとくねんかし」を、今こそ地域からバズらせたい。

家以外の“居心地の良い場所”

現在高校3年生の息子がユース交流センターに通うようになり、2年半が経ちます。その当時から息子は好きな事や、やりたい事ははっきりしていましたが、将来、何を極めていくかという問いにはなかなか答えられずにいました。高校生になってから、学校帰りに頻りにユース交流センターに通うようになりました。ユースにはスタジオがあるということで、初めはバンド活動のための利用が主でしたが、後に優しいスタッフの方とお話するようになり、また、沢山のお友達ができ、ユースで有意義な時間を過ごしています。スタッフの方は息子のやりたい事や得意とする事を引き出して下さり、現在、夢の実現に大いに協力して下さっています。また、息子はユースに集うお友達たちとの交流によって、人一倍大きくて優しいヒトに育っているように感じています。ユースは息子にとって、家以外の“居心地の良い場所”として有難い存在です。



小倉祐輔

NPO法人スマイルひろば



利用の高校生の保護者



自分の思いが、
現実になる場所



谷田 太陽
高校3年生



Q 初めてユース交流センターに来たのは?

高校1年生の時に先輩の紹介でユース交流センターを知りました。最初は音楽スタジオを利用したくて来館しましたが、スタッフと話をした際に、自分のやりたいことに共感してくれて、活動がスタートしました。自分は将来、ストリートカルチャーの悪いイメージや昔のイメージを変える写真家になりたいと思っています。スケートボードやBMXやボイスパーカッションやけん玉が趣味で、写真を専門に勉強できる大学に進学予定です。それまでは、「自分で楽しむ」ということだけを考えていたが、話をしてみて、「イメージ変えるために色々やろう」と一緒に企画をしてもらっていろんなところで活動を行うことができました。

Q 活動してみてもうどうだった?

最初は何かからすればいいかわからなかったけど、スタッフに相談すると「これからしたらいいんじゃない?」と提案をしてくれて、やりたいことが明確になっていきました。尼崎市の地域の人と接する機会が増え、市長や議員さんと話す機会もありました。大人の人と関わるとアイデアをたくさんもらえ、実現できる可能性が大きくなってきていると感じます。学校にいて楽しいことだけをしていた生活から、一緒に何かをやろうと明確な目標を持つようになると、どう動いていこうかと責任感が出てきたとも感じています。ユース交流センターは、自分の思いや実現したいことが、現実になりそうだと思う場所でした。



石橋 柚都
中学校3年生



Q ユース交流センターの印象は?

小さい頃からドラムをやっていて、将来プロドラマーになりたいと思っています。少年音楽隊にも所属をしていて、2年前までは青少年センターで練習をしていました。練習場所がユース交流センターに変わり、初めて来所したとき、スタッフの人が親身に話しかけてくれたのが印象的でした。「今日も来てくれてありがとう」という雰囲気でも歓迎してくれたのが嬉しくて、練習以外の時も来るようになりました。元々2人でチームを組んでいて、センターで色々な音楽ライブに出ました。初めて実施したライブが大成功で、正直調子に乗ってしまったんです。(笑)その後、練習もせず、遊んでばかりで、次のライブでは大失敗。それが原因で解散しました。

ユース交流センターがなかったら
できなかったこと、今までで一番の思い出

Q 現在の活動をするまでは?

解散したときもスタッフが気にかけてくれました。1人で活動することになって、センター内でメンバー募集のチラシを宣伝してくれたり、ソロライブを開催してくれたりしました。そのおかげで、センターと関わりのあった高校生や大学生と一緒にバンドを組むことができました。「一緒にやりませんか?」と誘った時に、「僕なんかでよければ」と中学生の自分に言ってもらえたのがとても嬉しかったです。その後、ちゃんとしたメンバーで初めて演奏したのは今までで一番の思い出です。ユース交流センターがなかったらチームもライブも出来てません。現在、オリジナルの曲づくりを進めており、今後ユース交流センターでワンマンライブをしたいです。

やりたいをやろう

実践「やりたいをやろう」



人と人が関われる場所

Q ユース交流センターに来るまでの生活は?

中学2年まで県外に住んでいて、3歳から劇団で演劇をしていました。小学校の時は学校が終われば劇団の練習に参加する演劇中心の生活で、友達と遊んだりした経験もありませんでした。中学生になって友達と遊ぶのが楽しくなって劇の練習をサボり、親に指摘され一方的に演劇を辞めさせられてしまいました。将来はマルチタレントになりたいと思っていたので、学校に行くことやすべてのことに意味を見出せなくなり、家にひきこもり始めました。その後、親の都合で尼崎市に引っ越してきました。引っ越し後も、何事にもやる気が持たず、不登校が続きました。友達もいないし、家庭環境も嫌になってきて、しんどくて、あの頃は本当に底辺だったと思います。



中村 華恋
高校1年生



Q ユース交流センターに来てどうだった?

スクールソーシャルワーカーに「ここで劇の練習できるよ」と紹介されてきました。初めて来た日にスタッフの人が色々話を聞いてくれて、結局5時間くらいいました。(笑)家にいても携帯を触っているだけだから、翌日もその次の日も行きました。「受験どうしよう」と話すと、スタッフが勉強を教えてくれて高校進学もできました。イベントに参加する中で、同年代や色々な人と関わることができました。久しぶりに劇もやりました。ユース交流センターは、自分みたいな人の話も聞いてくれて、家とか恋愛のこととか、ふざけた話も真剣な話もできます。いろんな人と出会って、場所を知って、今では他の場所でも活動できるようになりました。そんな出会いを私にくれた場所です。



小波津 実桜
高校2年生

Q ユース交流センターの活動に参加しようと思ったきっかけは?

中学生の時に、学校から案内をもらって、友達と一緒に来たのが最初です。本格的に利用し始めたのは高校1年生になってからです。勉強も得意じゃなかったし、部活も入ってなかったので、何かやらないかと思って、学校の先生の紹介を受けて子どもと遊んだりするボランティアなど色々な活動をしていました。夢もなかったんで、得意なこととか打ち込めることがほしいとも思っていました。やりたいことを見つけるために、半年間いろいろと挑戦してきたのですが、「これ」というものが見つからずじまいでした。そんな時にユース交流センターで実施しているユースカウンシルのチラシをもらったんです。もらった時は、「やってみたい」と思って参加しました。

始まりもユースだし、
繋げてくれたのもユース

Q 実際参加してみてもうどうだった?

参加して自分の人生を見つめ直し、1年で「やりたいこと」が見つかってきました。今は福祉の資格を取り、困難を抱える子どもたちに関わりたと思っています。自分が存在する意義を見出したことと、繋がりが増えたことが活動しての変化です。「誰かのためになっている」と思うと、自分の気持ちの方が強くなりました。今まで母親からは「あんたに何ができるの?」と言われてたんですが、この活動は「いいやん!頑張り!」と応援してくれています。ユース交流センターは色々な人と繋げてくれるリソースです。私の場合、始まりもユースだったし、人と繋げてくれたのもユースでした。色々な人にも出会い、自分の活動を最大化することが出来ました。



身近にユースセンターがある生活を目指して



ユース交流センターは、すべての若者が自分らしく活動できるように、次の内容に力を入れていきます。



1

8%→20%へ

市内在学者に対してユース交流センターが関わりを持つ中高生の割合は8%です。(2021年度実績)何かあったからではなく、若者がユースワーカーと日常的な関係性を築くユースセンターを広げていきたいと考えています。

2

若者の社会参画に向けた取り組み

若者が複雑な社会を乗り越えていくには、自分の環境を自分ごとに捉え動くことが重要だと考えています。政治、性、お金など身の回りにある社会について、自分の考えを周りの人と「普通に」話せる環境を創っていきます。

3

地域の中で放課後の時間を最高の時間に

日本では、「放課後の活動の価値」はまだ弱く、多様な選択肢の中から放課後の過ごし方を選択することが出来ていません。部活や塾だけでなく、若者が地域にある様々な資源と出会い活動できる状態を目指します。



Billiard

Q どんなスタッフがいますか？

A 大学生から年配のスタッフまで、いろいろな特技や話ができるスタッフがいます。気軽に話しかけてください。ホームページにスタッフ紹介ページがあるので、ぜひチェックしてみてください。

Dance

Talk

知って！
ユース交流センター！

ユース交流センターによくある質問をまとめました。少しでも知っていただき参加してみてください。

Q 居場所というイメージですが、目的や相談がなくても参加できますか？

A ユースセンターは、目的や相談がなくてもご利用いただけます。オープンラウンジはWi-Fi完備で、ゲームやボードゲーム、漫画などもあるので、自由にご利用いただけます。もちろん悩みがあればいつでも相談してください。

Game

Board Game



Q 1人で利用している人はいますか？ 個別相談などもできますか？

A 1人でゆっくりと過ごしてもらっても大丈夫です。また、誰にも話したくないことなど個別相談もできます。ご希望であれば市内の専門機関への紹介も行います。公式LINEでも相談を受け付けていますので、ご利用ください。

Eat

Study

Q 利用するのに料金はかかりますか？ 貸出などありますか？

A オープンラウンジ、図書コーナー、青少年学習室は無料でご利用いただけます。青少年グループ等は貸部屋を無料でご利用いただけます。詳しくはHPをご確認ください。ゲームやギター等貸出も行っています。
※一部中学生以上から

Read



Q 職員は若い人が多いですが、ユースワークと年齢は関係ありますか？

A 大学生から年配まで様々なスタッフがいます。年齢が近い方が、親近感を持たれやすいですが、必ずしも年齢が近くなければならないという訳ではありません。ユースワーク研修を実施していますので、ぜひご参加ください。

Meeting

若者の声を 尼崎に

ユース交流センターでは、
若者の「やりたい」を
たくさん待っています。



Twitter



Instagram



LINE



YouTube



Facebook



ー アクセス方法

- ・徒歩でお越しの場合・・・阪急園田駅から徒歩約15分
JR塚口駅から徒歩約20分
- ・バスでお越しの場合・・・阪神バス「百合学院」下車すぐ

ー お問い合わせ

〒661-0974 尼崎市若王寺2丁目18番4号(あまがさき・ひと咲きプラザ内)
TEL. 06-6423-7788 FAX. 06-6409-4551
E-mail: info@youthconso.jp